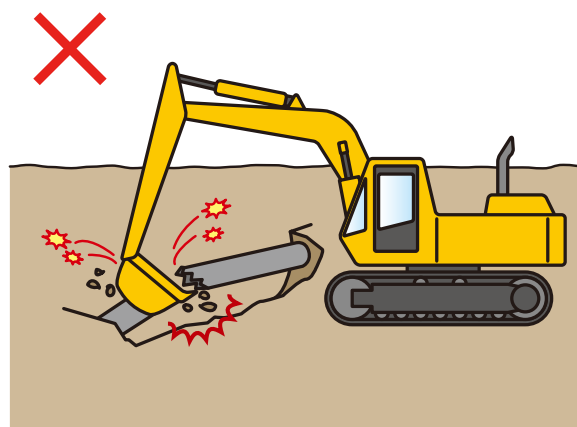
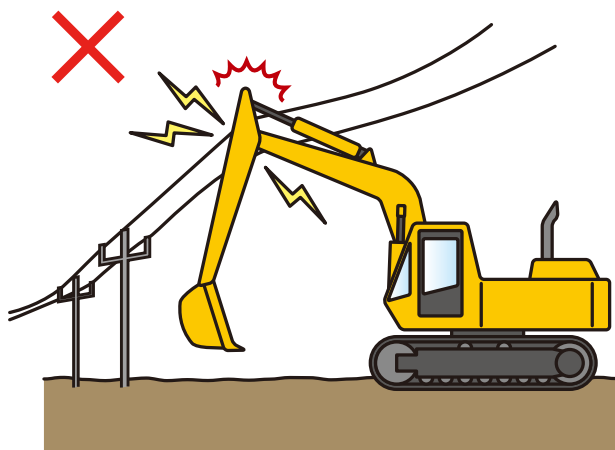


車両系建設機械の作業の注意事項

(1) 作業開始前の現場の確認

- ①電線の近くで作業をしなければならない場合は、電線防護処置をし、監視員を配置してから作業します。
埋設管のある所では誘導員の合図に従って機械でゆっくりと管を露出させます。

※市街地の水道管、ガス管等が埋設されている場所で作業する場合、現場監督、水道会社、ガス会社の立会のうえ、人力で管の位置を試掘します。



- ②道路脇、民家先での作業の場合には通行人等の第三者の安全確保のために交通誘導員を配置し、カラーコーン等で作業場所の明示をしてから作業します。

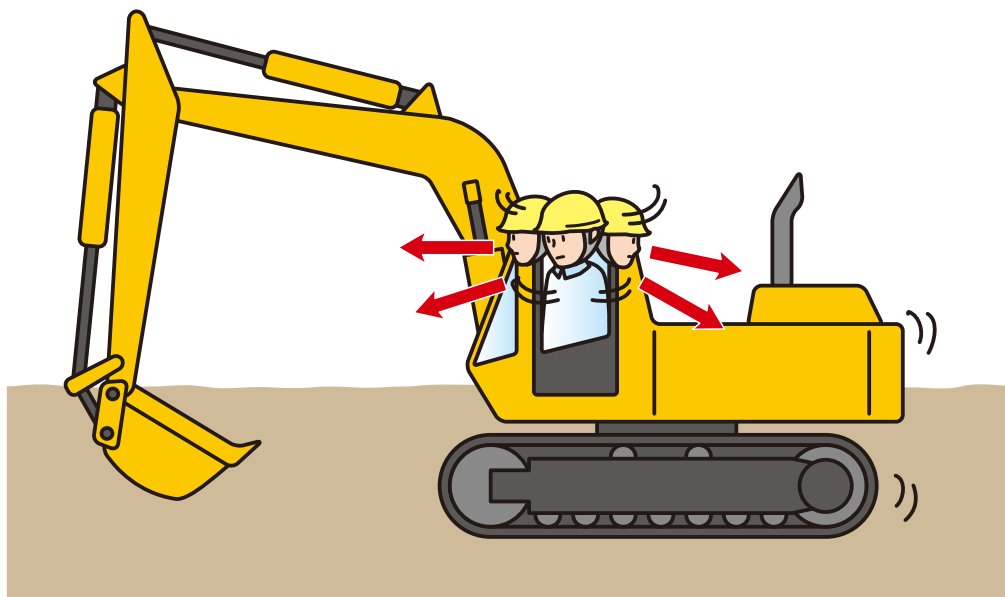


(2) 作業の安全 (その1)

- ①機械への乗り降りは両手両足で手すりやステップを使った3点支持で確実に行います。周囲の安全が確認できても、機械への飛び乗りや機械から飛び降りてはいけません。

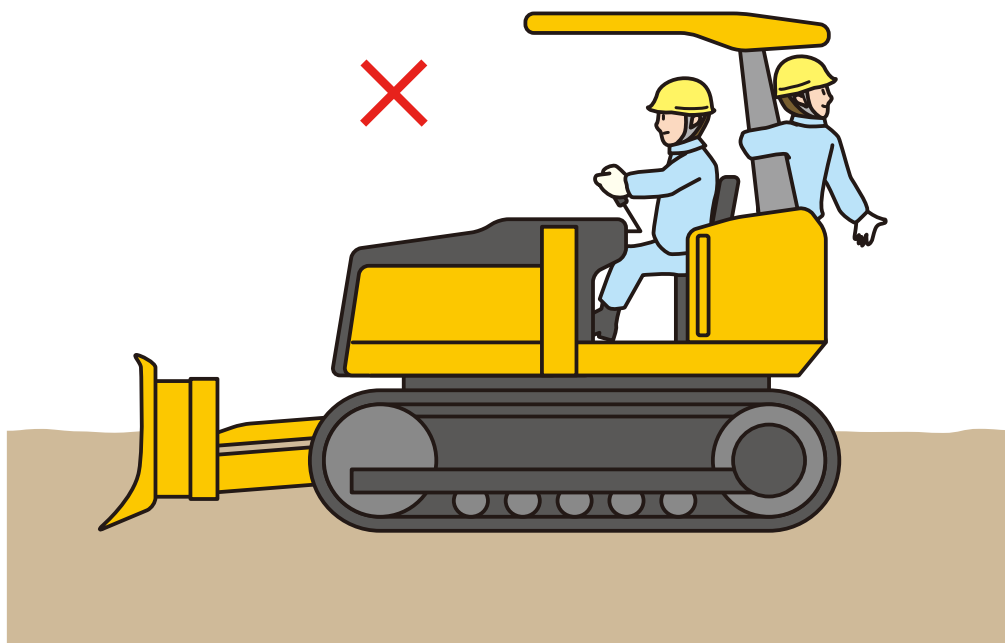


- ②機械の運転中は、作業指示された機械の運転業務だけに集中し過ぎないで、機械の状態や近接作業をしている者や通行人等の第三者にも気を配ります。



(3) 作業の安全 (その2)

- ③作業をする時、建設機械の運転席でないところに人を載せてはいけません。

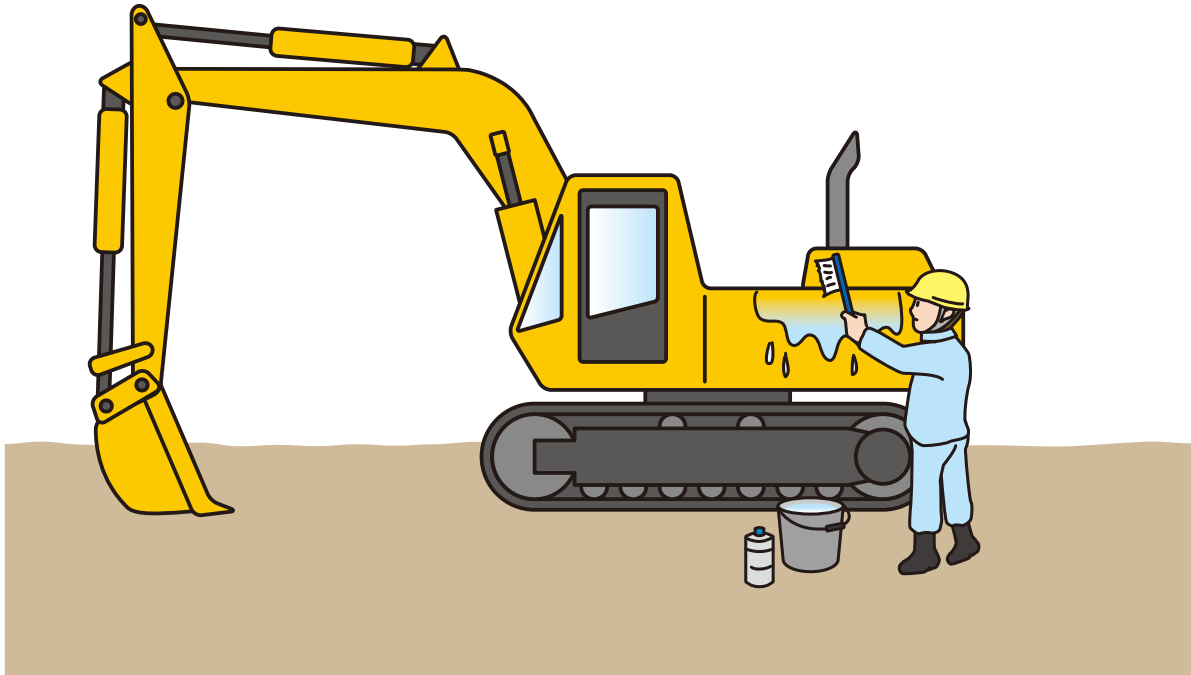


- ④急発進、急ブレーキなどの乱暴な運転をしてはいけません。

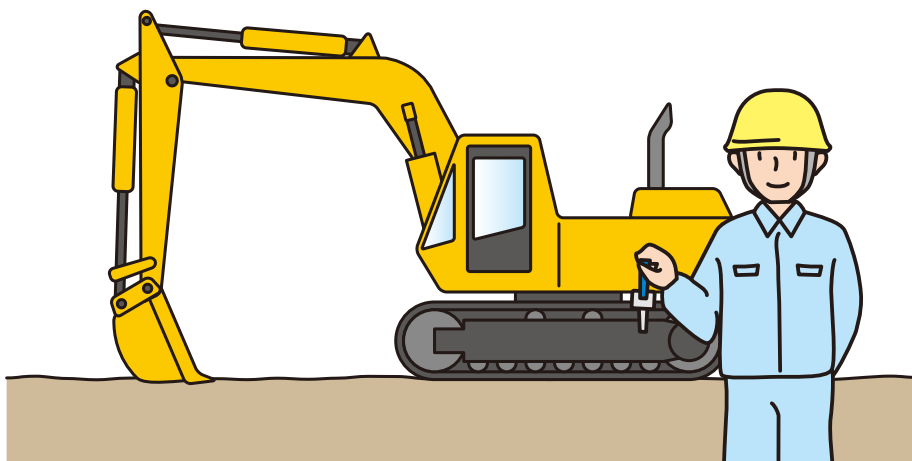


(4) 作業終了後の措置

- ①作業終了後、機械を清掃し、燃料を補給して、決められた場所に駐機します。

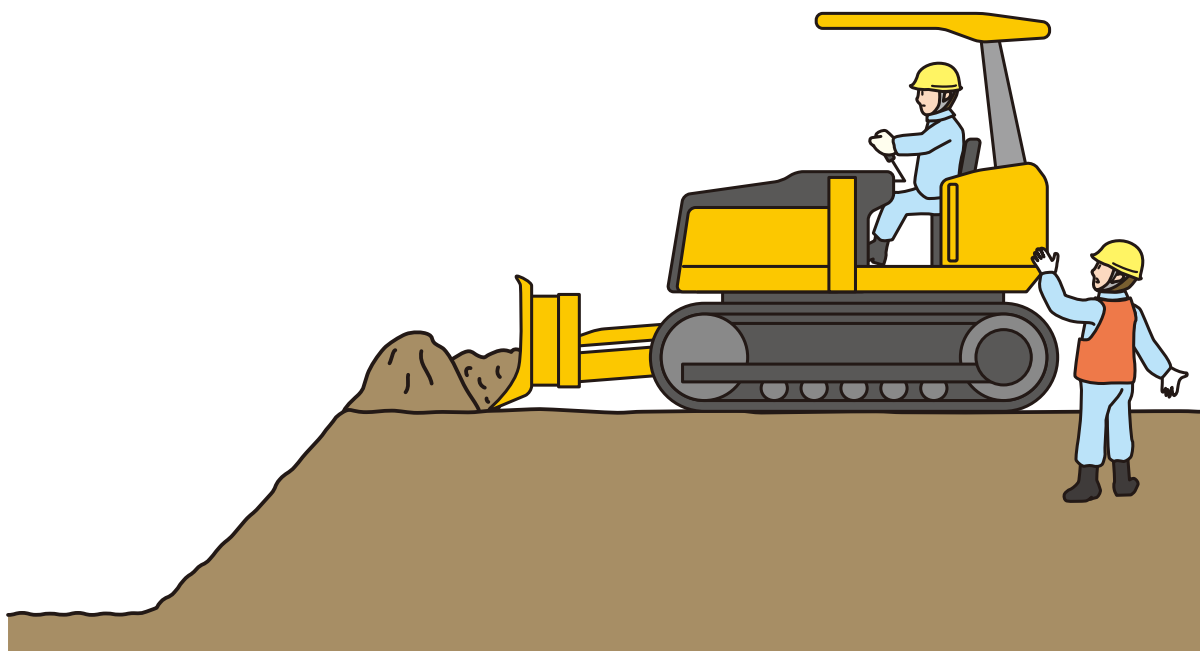


- ②作業終了後は、機械を決められた場所に駐機して、作業装置を地面に下した後にエンジンを止めます。エンジンを停止する時、作業機レバーはすべて「ニュートラル」にし、ロックします。機械のカギを抜いたら、決められた場所で保管します。

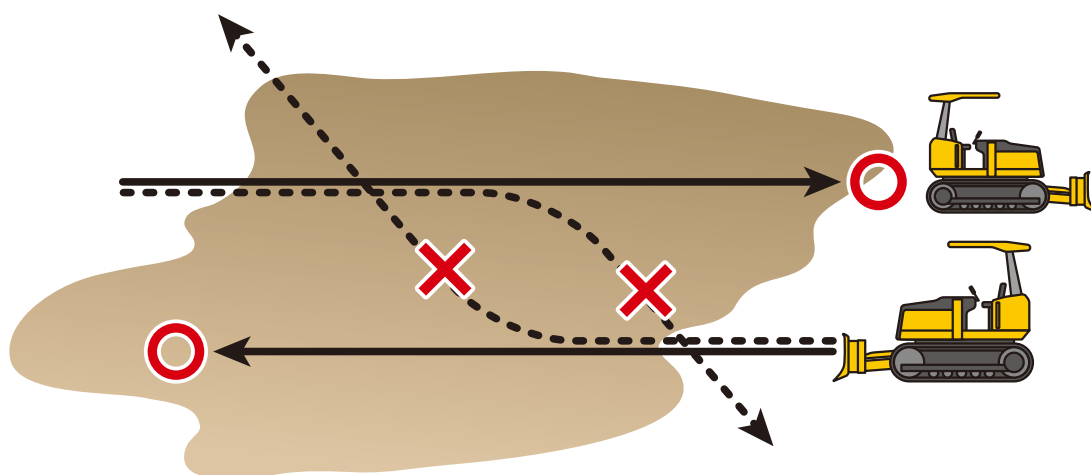


(5) 現場条件に適した運転

- ①路肩、法肩等の転落のおそれがある場所で作業する場合には、法肩に近寄り過ぎないようにし、誘導員や監視員を置いて慎重に作業します。

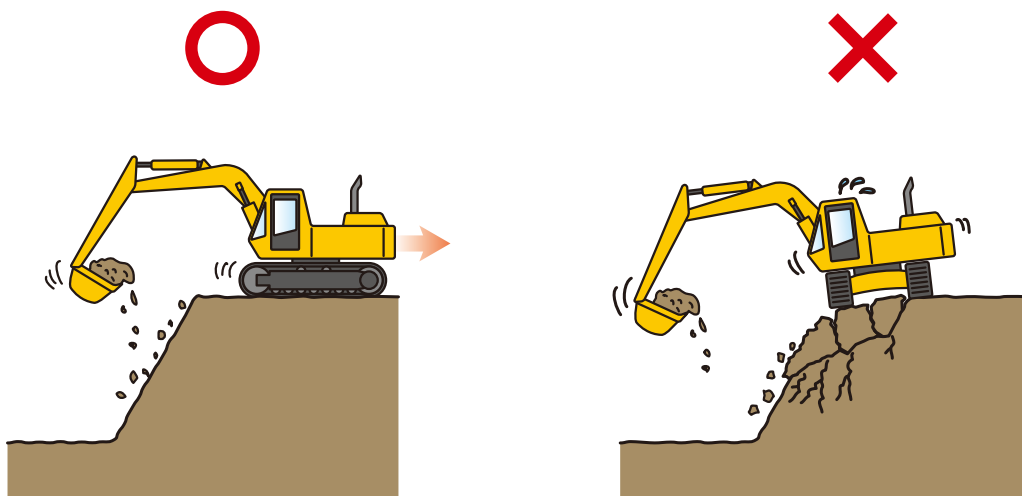


- ②軟弱地盤内では、できるだけ操作レバーを切らないようにします(曲がらない)。また、湿地ブルドーザを使用し、できるだけ同じところの走行を避けます。

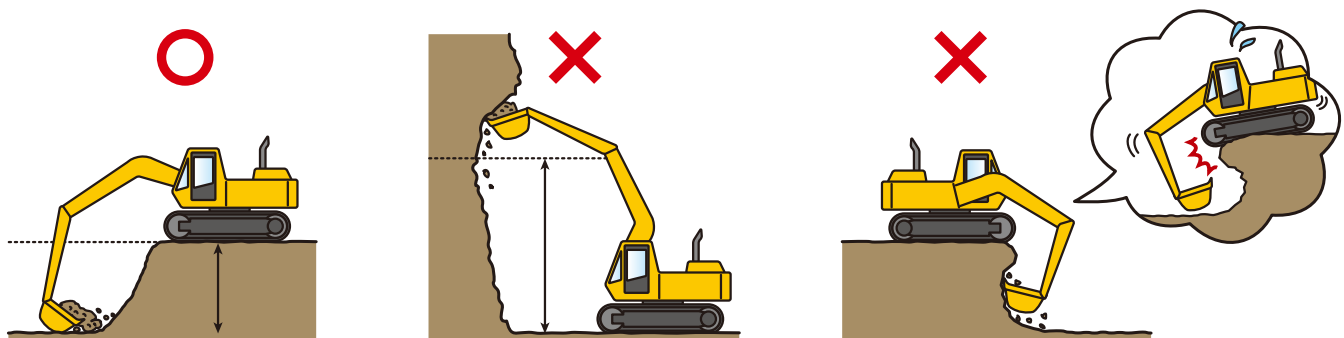


(6) 掘削作業の安全

- ①掘削する場合、土質によっては路肩が崩壊することがあり、クローラの走行方向は掘削面に直角とします。横向き掘削は、非常の場合の退避などを考えると危険です。



- ②土質等を確認し、すかし掘りにならないよう掘削高さ、掘削深さは、余裕をもって行います。

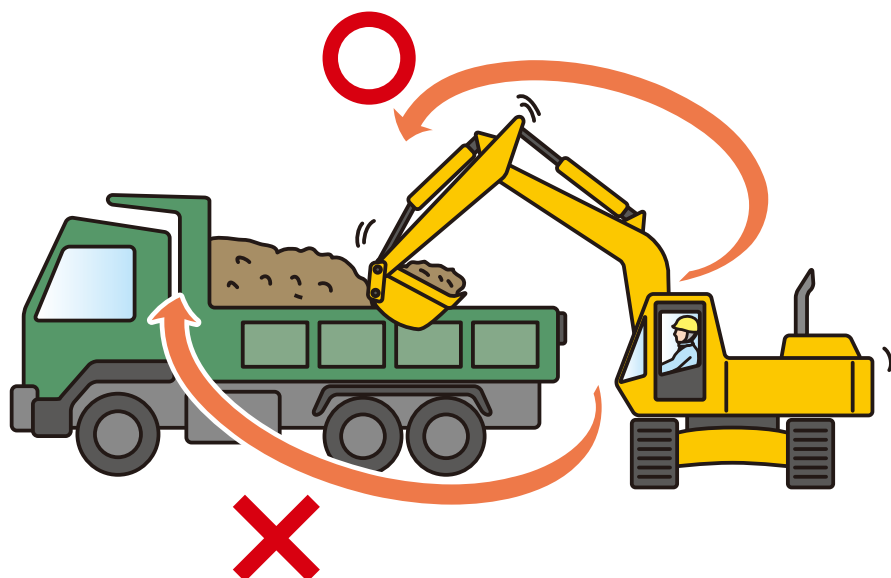


(7) 積み込み作業の安全

- ①掘削土砂をダンプトラックに積み込む場合は、油圧ショベルをダンプトラックの荷台の高さ（2～2.5m）程度に据付けると効率よく積み込めます。

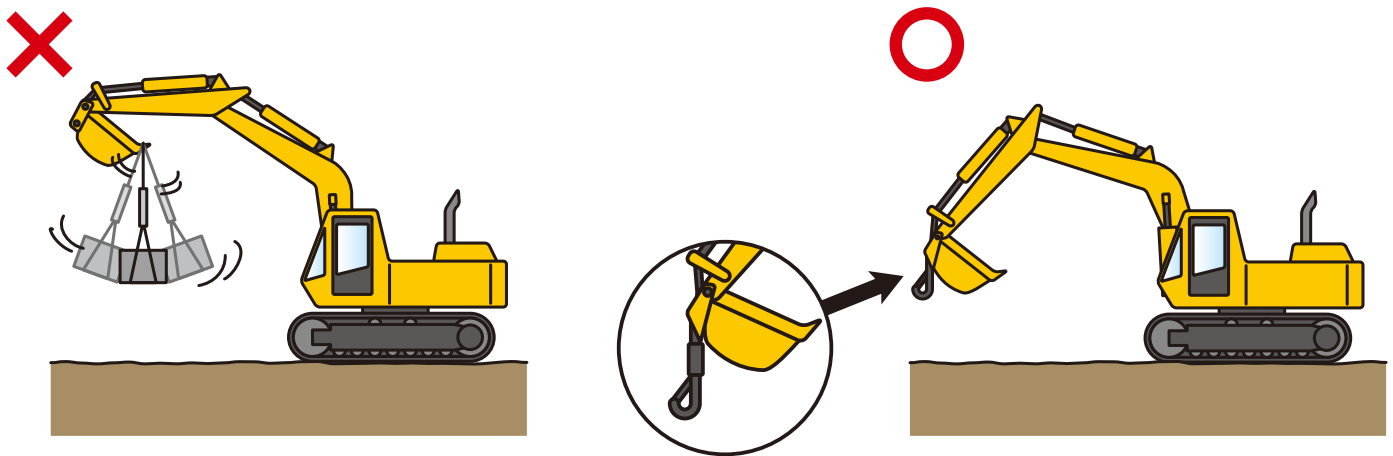


- ②ダンプトラックに積み込む場合は、運転席の上を旋回せずに荷台の後方から旋回します。



(8) クレーン機能付き油圧ショベル

- ①油圧ショベルのバケットツースにワイヤを掛けて荷物をつることはできません。油圧ショベルでクレーン作業を行う場合は、クレーン機能を備えた機械でなければ行ってはいけません。



- ②油圧ショベルのバケットで杭を打ち込む作業をしてはいけません。

